

会 議 録

会議の名称	西東京市図書館協議会 令和4年度第2回臨時会
開催日時	令和4年9月9日（金）午後2時30分から4時30分まで
開催場所	田無第二庁舎 3階 会議室
出席者	委員：島会長、鈴木副会長、上田委員、緒方委員、柴田委員、 長谷川委員、福士委員 （欠席）山辺委員、野崎委員、東山委員 事務局：徳山館長、湊山副館長、金本庶務係長
傍聴者	0名
議 題	第1 諸報告 第2 令和3年度西東京市図書館事業評価について 第3 その他 視察研修について 新中央図書館構想について
会議資料の名称	資料1 西東京市図書館協議会視察先一覧表 参考資料 令和3年度西東京市図書館事業評価（最終案） 参考資料 図書館事業の見直し（提言） 参考資料 西東京市図書館基本計画・展望計画－平成21年度－平成30年度－
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会 議 内 容

第1 諸報告（館長より）

市議会第3回定例会について

- ・ 8月29日から始まり、一般質問の中で図書館に関するものは、電子図書館の進捗についてがありました。
- ・ 教育委員会としては現在他自治体の分析中であり、この4月から始めた清瀬市と令和2年度から始めて今回子どもの本に特化したサービスを進めている立川市の視察で情報収集をしてきたことを踏まえて、それらの取組内容を参考にしつつ、検討中であることを答弁しました。
- ・ 補正予算では、電気代高騰によることで公共施設においても影響が出ていることから補正予算を計上し、9月8日に可決しました。
- ・ 9月15日から22日は決算特別委員会 9月27日が定例会最終日の予定です。

夏のイベント終了の報告

- ・ 8月7日大貫伸樹氏講演会「安野光雅の絵本作りの原点を探る」、8月21日行田

健晃氏講演会「農民とサムライのあいだ」が終了し、ホームページに報告を掲載しています。

- ・ データベースを活用した子ども向け企画「誕生日新聞をつくろう」は大盛況でした。
- ・ 大人向けにも何かできないか現在レファレンス担当が考えています。

第2 令和3年度西東京市図書館事業評価について

○副館長

- ・ 皆さんの意見をもとに会長がまとめられたものを、皆さんに確認していただき、ご指摘を反映したものがお配りした最終案になります。

○委員

- ・ 5ページ 1行目の 誤：口座 → 正：講座

○会長

- ・ 5ページ 下から3行目の「排架」の表記は、図書館の表記が「配架」であればそちらに統一してください。

第3 その他

視察研修について

○館長

- ・ 前回候補とした立川市にお願いして、全員揃う11月4日の午後にしました。
- ・ 現地集合で、14：00開始として先方をお願いしてみます。
- ・ 正式に決まりましたら、行き方や集合場所等をお知らせします。
- ・ 視察は、電子図書館をメインとはしますが、IKEAが全面協力してリニューアルした学習スペースもご覧いただき、西東京市の中央図書館を考えるとときのヒントにしていいただければと思っています。

○会長

- ・ 立川市のコンテンツ使用料が高額であると聞きましたが、実際はどうなのでしょう。

○館長

- ・ 立川市は企業からの寄付があると聞いています。
- ・ 図書館長がかなり苦勞されているようですが、西東京市ではなかなか難しいです。

○副会長

- ・ 電子図書館の運営は先まで考えていかないといけませんね。
- ・ 寄付を前提に運営していくことは、西東京市ではあり得ないことと思います。

○館長

- ・ 市が責任をもって提供することは紙の本と同じなので、景気により左右されることは考えられません。
- ・ 委員皆さんの視点で立川市を視察し、共有していただけるとよいと思います。

○委員

- ・ 文部科学省から8月2日付けで「1人1台端末環境下における学校図書館の積極的な活用及び公立図書館の電子書籍貸出サービスとの連携について」という事務連絡がありましたが、政策的にその方向に進めるのであれば、国からの補助など

期待していくしかないのかと思いました。

○館長

- ・お金の点も大きいですし、あとは公共図書館向けのコンテンツが問題です。
- ・実際に交付金があっても広がったところと慎重なところがあるのは、その中身もあるので、そこは出版社がある程度門戸を広げてくれないといけないとも思います。
- ・また学校が充実すれば、公共図書館の役割も考えなければいけないと思います。
- ・タブレットを実際に持って使っている世代に図書館を利用してもらいたい。特に中学生や高校生等にも使ってもらいたいけれど、どうしてもうまく繋がらないので、電子書籍をきっかけにするということは一つの方法として期待したいところではあります。
- ・検討し進めていくので、皆様のご意見をいただき、この先の西東京市図書館の電子書籍のあり方を一緒に考えていただきたいと思います。

○会長

- ・今年度のもう1回の視察については、どうしますか。

○館長

- ・時期は、2～3月と考えておりますので、視察先と日程は次回に検討します。

新中央図書館構想について

○館長

- ・今の図書館計画までの流れがわかる資料が以下です。
 - 「図書館事業の見直し（提言）/図書館協議会」（2008. 3. 31）
 - 「西東京市図書館基本計画・展望計画（2009～2018年度）」（2009. 3）
 - 「西東京市図書館における電子書籍のあり方について/図書館協議会」（2013. 4. 30）
 - 「西東京市合築複合化基本プラン策定に向けた提言/合築策定懇談会」（2016. 2）
 - 「西東京市図書館の運営体制のあり方について（提言）/図書館協議会」（2018. 3）
 - 「西東京市図書館計画（2019～2023年度）」（2019. 3）
- ・資料はホームページから見られますが、本日は「図書館事業の見直し（提言）」、「西東京市図書館基本計画・展望計画」をお持ちでない方にお渡しします。

○会長

- ・大きな流れで言えば、来年度は次期図書館計画を作るので、その前に協議会でアウトラインのようなものが話し合えればよいと思います。
- ・今の計画の時は「西東京市図書館の運営体制のあり方について（提言）」を作ったので、それにあたるものですね。

○館長

- ・次期図書館計画策定懇談会の前に、図書館協議会でまとまった方向性が出ていると良いのですが、前回のような提言といった形式ではなくてよいです。

○会長

- ・ここで話し合ったものを形にすればよいですね。
- ・内容は、新中央図書館ということでよいですか。

○館長

- ・新中央を考えるときに、地域館の役割も考えなければならないので、全体の内容になります。

○会長

- ・大枠として「私たちが願う西東京市の図書館」で、この協議会が願う図書館ということですね。
- ・これだと全部を網羅するわけではなく、我々が関心のあるところ、大切だと思うところだけでまとめられますし、第一番が中央図書館の構想ですね。

○館長

- ・あとは、事務局からこの視点で考えて欲しいといったことを依頼することがあるかもしれません。
- ・西東京市の図書館があつて良かったと思ってもらえるように、こちらは努めなければならないので、そのような形で進めていただければと思います。

○会長

- ・資料としては、合築プランをメインに参考にしながら私たちの願う図書館を考えていくということによいですね。

○副会長

- ・当時、合築の懇談会では、そもそも決まった入れ物に図書館・公民館・市民会館3つの機能を入れることが前提で、図書館としては、全体の1/3にならないように話しました。

○委員

- ・報告書を読みましたが、この内容の全部が図書館です。
- ・図書館は広場…おしゃべりが生まれます。あたらしいことをする力がめをさまします。」と、田無市立図書館開館時のパンフレットに書きました。だれとでもコミュニケーションできる空間があり、人と人とのつながりができ、ひょっとすると何かを創り出す環境（場）が生まれるところが図書館ですというメッセージです。
- ・また、「一人一人の中に図書館がある」と肝に銘じたことを思い出します。図書館は、人類が創り出した知恵を含めた情報（メディア）を蓄積して公開する機関と言われていています。その意味で、一人の人間についていえば、日々の生活の中でさまざまな情報を収集しながら、それぞれの場面でふさわしい言葉で他者とコミュニケーションしていると思います。まさに図書館ではないでしょうか。
- ・補足すると、コミュニケーションは、手振り身振りを交えることもあるでしょう。そうした行為や所作がことば（文学全般）とともに、絵画や音楽や舞踏や芝居をも創造することになるのでは…
- ・報告書では、支援が公民館、発表が市民会館、メディアの部分だけが図書館と提案されているが、そうではなく全て図書館だと思います。
- ・資料があつて、それを発信する、発信により何かが生まれてくる。
- ・図書館があつてそれらが発展していくわけで、昔を思いつつ、図書館への夢は捨てきれないです。

○会長

- ・この中ではA案が一番図書館を重視していて、共有スペースとして扱われている部分の数値も含め行政文書として具体的に出ています。

○副会長

- ・この時は、コンサル業者が入り、図書館はメディアとしか捉えていただけなかったのです。（当時の状況説明）説明してもわかってもらえませんでした。
- ・公民館はグループのみで利用する点が大きく違いますし、市民会館の学習室を残してほしいという意見はどの案にも残っています。
- ・図書館は一生使える学びの場であり、個人で行けるし、グループや各種集団でも利用できるの、にぎやかにセッションできるような場も欲しいと話した記憶があります。
- ・図書館の資料を使わない学習室は、今は保谷駅前のみですが、こういう利用の仕方も図書館の本来の使い方のひとつとして必要だという話もしました。
- ・当時、小川町の図書館を視察して良いと思った点は、1学級分が入れるスペースがあることで、魅力的でした。
- ・いろいろな利用の仕方があり、それぞれがお互いを干渉しないゾーニングができると良いと今でも思っています。

○委員

- ・最初に図書館ができた時に、図書館は広場ですと書きました。
- ・おしゃべりできる空間があり、そこでコミュニケーションができることは私が最初に図書に求めたイメージです。
- ・「ひとりひとりの中に図書館がある」という言葉を自分の中に持ち続けているので、そんな図書館像がまた浮かんできたら嬉しいと思っています。

○委員

- ・私も「心の中に図書館」というのは、とても素敵な言葉だと思います。
- ・みんながそこにいろんな知識とか多様性とかそういうものを感じて、国が間違がった方向にいかないように図書館はあるのだと思います。
- ・いつも思うのですが、図書館で働いている方が本当に大変だと思います。
- ・専門職なのに奉仕者という立場もあって、その狭間に立たされて本当に辛い思いをされていると思います。些事に労力を使うって本当にどうなのかなと思います。
- ・皆さんがいてくださることで、私たちの学びが深くなるのです。
- ・皆さんが楽しんで仕事をしてくださり、そして皆さん自身の学びを深め、若い職員も成長してもらえれば、必ず私たちに還元されると思います。
- ・だから今のようなゆとりのない働き方では良くないと思います。

○会長

- ・今日は頭出しというところで、これから深い議論をしながら進められたらと思います。
- ・評価は終わったので、次回10月14日はこの話の続きで良いですね。
- ・事務局へのお願いとして、合築の提言の部分を共有するため次回皆さんに配れるように何部か用意してください。
- ・今日はこれで終わりにします。

次回、第3回定例会 10月14日（金）14時30分～16時